

なし管理情報 No.4

令和8年5月12日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1 生育状況

- 「幸水」の満開は、4月12日頃で、前年に比べ5日、平年に比べ2日早かった。
- 「幸水」の結実量は、約3~4果/果そうで、やや良好。一部長果枝に花芽が少なく、結実量が少ないものがみられる。
- 「豊水」の結実量は、やや良好。
- 強風による果実のスレがみられる。

開花状況（下野方）

年次	豊水		幸水	
	開花始	満開	開花始	満開
R8年	4/8	4/9	4/10	4/12
R7年	4/12	4/15	4/15	4/17
平年	4/8	4/11	4/11	4/14

2 病害虫防除

1) 薬剤防除

回数	散布時期	散布薬剤と希釈倍率	散布量 (L/10a)	対象病害虫	実施日 (自己記入)
7	5/20~22頃 (袋かけ直前)	デランフロアブル 1,000倍 スミチオン水和剤40 1,000倍	350 L	黒星病、赤星病、黒斑病 心腐れ症 (胴枯病菌) ハマムシ類、シクイムシ類 カメムシ類、クコカイガラムシ	
8 ※1	5/31~ 6/2頃	オキシラン水和剤 500倍	350 L	黒星病、黒斑病、輪紋病	
9 ※2	6/11~13頃	ベルコート水和剤 1,500倍 ダイアジノン水和剤34 1,000倍	350 L	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病 ハマムシ類、シクイムシ類、アブラムシ類、コカイガラムシ類若齢幼虫	

※1 カメムシ類、コナカイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い場合は、ダントツ水溶剤（4,000倍、収穫前日まで、3回以内）を加用する。

※2 カイガラムシ類の発生が多い場合は、アプロード水和剤（1,000倍、収穫30日前まで、2回以内）を加用する（8回目、9回目と混用可）。

- ・使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用する。
- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意する。
- ・カメムシ等複数の害虫が発生した場合の散布薬剤の選定については、振興センターへ相談する。
- ・散布予定日に降雨が予想される場合は、散布間隔が開きすぎないように前倒しで実施する。
- ・散布ムラが生じないように丁寧に散布し、薬剤がかかりにくい園地周辺は補正散布を徹底する。
- ・こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意する。

2) 病害虫発生状況

【黒星病】芽基部病斑の発生率は、「幸水」で0.3%と平年0.2%よりやや高く、「豊水」で0%と少ない（4/27時点）。5月に入り、果実病斑の発生がみられる。

【木材腐朽菌】萎縮症状がやや多い。

【ナシヒメシクイ】フェロモントラップでの誘殺は、4月第1半旬から5月第1半旬まで連続して確認、ピークは4月第3~4半旬で、誘殺量は平年より多い。

【カメムシ類】チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの誘殺は5月第1半旬に12頭確認され、発生時期は平年より早い。園地でクサギカメムシが目撃されている。

3) 黒星病対策のポイント

- ・芽基部病斑、春型病斑は、見つけ次第摘み取り、園地外で処分する（図1）。



図1 黒星病の病斑（左：健全な芽基部、中央：病斑のある芽基部、右：葉柄上の春型病斑）

3 今後の管理

1) 摘果

(1) 予備摘果

- ・満開後10～20日から開始し、5月中旬頃を目途に全品種の作業を完了する。
- ・残す果実は、果そう内に1果とする。

<残す果実の特徴>

- ①果梗が上～横向きで長くて太く、果形がやや縦長で大きく整っている果実（1番果以外の3～5番果あたり（図2））
- ②葉枚数が多い果そうの果実
- ③「新水」、「豊水」、「あきづき」は、斜め～横向きの果実（軸折れ防止）

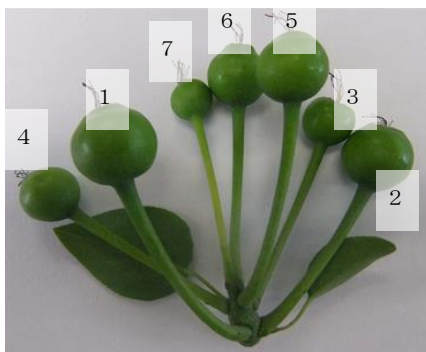


図2 番果の数え方
（果そう基部から順に数える）

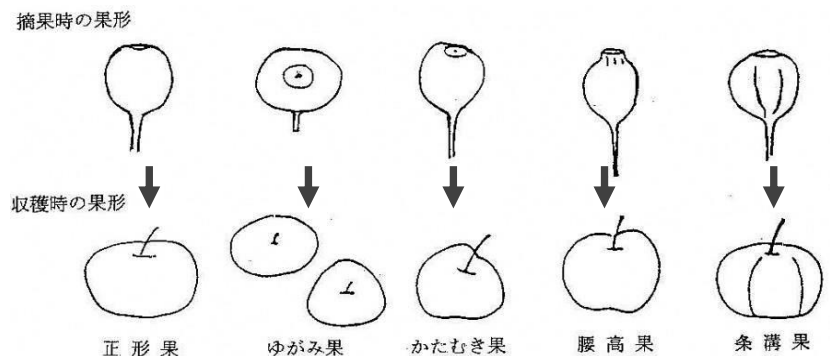


図3 幸水の摘果時と収穫時の果形（原図 長野県果樹栽培指針）

(2) 仕上げ摘果

- ・下表を目安に行うが、樹勢の強弱によって着果量を加減する。

表 仕上げ摘果時の着果量

品種	仕上げ摘果完了時期	1㎡当たりの着果量	1樹当たりの着果量 (3間植えの場合：5.4m×5.4m)
はつまる	満開後30～40日頃	9～10果	260～290果
筑水	満開後30～40日頃	12～13果	340～360果
なつしずく	満開後30～50日頃	11～12果	320～340果
幸水	満開後30～40日頃	9～10果	260～290果
豊水	満開後30～50日頃	11～12果	320～340果
あきづき	満開後30～40日頃	11～12果	320～340果
甘太	満開後30～50日頃	10～11果	290～320果
新高	満開後30～60日頃	8～10果	230～290果

2) 新梢管理

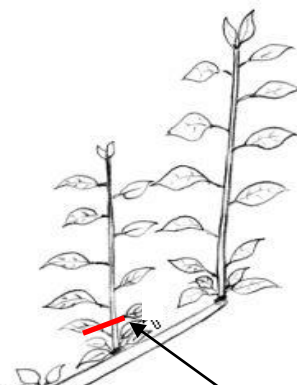
(1) 予備枝の管理

ア 目的

- ・先端の新梢伸長促進（優良長果枝の育成）
- ・短果枝の育成（次年度、着果させる）

イ 実施方法

- ・予備枝は、先端新梢1本を残して他は全て摘心する（図4）。
- ・果そう葉の無い新梢は、葉3～4枚残し、果そう葉のある新梢は、果そう葉を残して摘心する。



長い予備枝：この新梢を摘心

図4 予備枝の摘心

(2) 側枝の管理（摘心）

ア 目的

- ・短果枝の育成
- ・果実肥大の揃いを良くする

イ 実施方法

処理時期：5月中旬～6月上旬頃（満開後30～50日頃）

処理部位：側枝の基部～中央部

処理方法：果そう葉の無い新梢は、葉3～4枚残し、果そう葉のある新梢は、果そう葉を残して摘心する（図6）。

再処理：摘心後、新梢が再伸長した場合、随時かき取る。
（新梢長が15cm程度で止葉ならそのままよい。）



図5 摘心位置

ウ 注意事項（重要！）

- ・樹勢が低下している樹は摘心しない。
- ・30cm以上伸びた新梢の摘心は、樹勢を低下させる恐れがあるので行わない。

3) 「なつしずく」のジベレリンペースト塗布

- ・「なつしずく」果梗にジベレリンペーストを塗布することで収穫盛期が1週間ほど早くなり、「幸水」との収穫競合を軽減させることができる。ペースト塗布による果実品質や日持ち性に大きな影響はない。
- ・処理前までに仕上げ摘果を完了する。

本年の「なつしずく」処理時期 **5月12日～22日頃**（満開30～40日後）

使用量：20～30mg/果

4) 土壌水分管理

- ・近年、管内では、5月中下旬に5日以上連続した無降雨日が発生しやすい傾向にある。また、5月16日頃から高温が予想されている。無降雨日が5日以上続いた場合、5～7日目に1回あたり20mm程度のかん水を行う。

<お知らせ>

- ・次号は、6月中旬の発行を予定しています。

<問い合わせ先>新川農林振興センター 宮本 52-5192
JAうおづ 営農企画課 24-9923